Vol.22
2018秋号

NPO法人　西東京市多文化共生センターだより

Nishitokyo Multicultural and International Center News

CONTENTS

●西東京市日本語スピーチコンテスト
●西東京多文化フェス
・サリーを着て女子会
・浴衣で夏祭り
●世界ともだちプロジェクト
●留学生ホームビジット
●NIMIC掲示板
・会員募集中／理念と活動内容／
多文化共生センターへのアクセス

西東京市日本語スピーチコンテスト

サリーを着て記念撮影

今年も盛大に「日本語スピーチコンテスト」

8回目を迎えた「西東京市日本語スピーチコンテスト」は2018年10月7日市内のコール田無で開催されました。当日は2週続きの台風が心配されましたが、幸い夏を思わせるような暑さの一日になりました。コンテスト出場者は13名の皆さんでした。皆さんの日本へ来た目的や現在のお仕事、勉強の内容など様々で、ひとりひとりの張り切った日本の生活が話されました。そこからは今の課題に取り組む様子、そして将来の夢が熱心に語られ、場内の多くの市民の皆さんもいろいろな感銘を受けたようでした。今回も審査には市民審査員5名が参加され心のこもった表彰コメントもいただきました。

スピーチ内容を登壇順にご紹介します

①	張　志苓	中国	「私のしごと」	敢闘賞
②	張　越	中国	「私の目の中の美しさ」	敢闘賞
③	アブラクロワ　ノディラ	タジキスタン	「みなさんはどう思いますか」	敢闘賞
④	高　雪梅	中国	「私は宇宙人です」	敢闘賞
⑤	梁　秀宇	中国	「私が日本に来た理由」	敢闘賞
⑥	ヤム メイ イー メイ	香港	「絆」	NIMIC賞
⑦	朱　伶玉	中国	「日本に来た発見」	敢闘賞
⑧	梁　家蓁	台湾	「趣味と日本語と繋がり」	敢闘賞
⑨	崔　瑛	中国	「ありがとう」	西東京市長賞
⑩	李　旭堃	中国	「一枚の紙」	敢闘賞
⑪	花　宇寬	台湾	「日本に来て驚いたこと」	敢闘賞
⑫	ディリムラト イミト	中国新疆ウイグル自治区	「留学を決めた理由」	武蔵野大学学長賞
⑬	朱　雅蘭	中国	「武蔵野と私」	敢闘賞

＊子ども日本語教室に通う子どもたちからのメッセージ発表（小学校6年生・中学校3年生）もありました。

心に響く発表ありがとうございました

8回目を迎えた今年のスピーチコンテストは、当初、締め切り時に4名の方の申し込みしかなく、どうなることかと心配していましたが、蓋を開けてみれば、13名の方たちの申し込みがあり嬉しい悲鳴に変わりました。ただ、同じ国の発表者が多く頭を悩ませたこともありました。しかし、発表を聴いてみれば、年齢も性別も生活環境も日本に来た理由も様々なので、心配には全く及びませんでした。

実行委員も新メンバー3名が加わり13名になり、いろいろな問題があるたびに話し合い、また実行委員以外の方達のお力もたくさんお借りして当日を迎えることができました。　今年も発表者の皆さんの思いがつまった心に響く発表を聴きコンテストの実行委員として開催に携われたこと本当に嬉しく思っています。

最後になりましたが、多くの皆様のご協力のもとに今年のスピーチコンテストを終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。　（実行委員長　清水智子）

サリーを着て女子会、そして浴衣で夏祭り
「西東京多文化フェス」を実施

今年から新しく始まったイベント「西東京多文化フェス」が計画通り実施されました。地域に住む外国人の方々と日本人にそれぞれ楽しんでもらおうと、今年度は「サリーを着て楽しむインドの女子会」と「ゆかたで夏祭り」の２つのイベントが実施されました。この交流事業は「SOMPOちきゅう倶楽部」から活動助成金を受けています。

「サリーを着て楽しむインドの女子会」

6月3日（日）田無公民館に、講師のショバナ・スダアサンさんがインドからお持ちになったものに加え、参加者の方が持ちよったものを合わせて25枚のサリーが集まりました。それぞれ全く印象の違う柄でしたし「着たいサリーのお席へどうぞ」と案内したこともあり「どれが似合うと思う？」と、開始前から会場は大盛り上がり。初対面の相手とペアになり、二人で「どうやって着るのかしら」と悩みながら着せ合ううちに、すっかり仲良くなったという方々もいらっしゃいました。

記念撮影の整列時、体の左から撮るか、右からかで、講師と参加者の意見が分かれました。参加者の多くは、左のほうが下半身のドレープが綺麗に見えると感じたのですが、右からの方が肩にかけた布地が美しく見えるからオススメだという講師の説明に、参加者同士で確認、「なるほど」と納得。こうした小さな発見も楽しめたひとときでした。

「浴衣を着て夏まつり」

特に暑かった今年の夏でしたが、7月29日（日）夕方6時の集合時間前から参加の皆さんが田無公民館に集まり始めました。そして申込みの20名の参加者は用意された「浴衣と帯」セットから好きなセットを選び着付けがスタート。女性17名・男性3名の着付けも予定時間前には完了、まず全員で記念写真。

浴衣に着替えて全員撮影

盆踊りの会場は、東伏見のアイスアリーナ広場です。5グループに分かれ出発です。電車で2駅、会場へ着くとさっそく踊りの輪の中に。参加の皆さんはすぐ踊れるかなとスタッフは心配していましたが、皆さんはすぐに踊りの輪の中に溶け込んでいきます。そして櫓の上にも上がって踊る人もいました。

踊りの輪にすぐ加わって

楽しい1時間はあっと言う間に過ぎ、アンケートに答えてくれた参加者全員が「楽しかった」というイベントでした。そして盆踊り主催者の東伏見商栄会の方々からも「今年は初めて大勢の外国人の参加があってよかった」との声がありました。

今年の世界ともだちプロジェクト

２年目を迎えた「世界ともだちプロジェクト」。東京オリンピックに向けて、子ども達に大会参加予定国・地域について幅広く学んでもらおうという東京都の取り組みです。最終目的は、世界のさまざまな文化・歴史などを学ぶことを通して、世界の多様性を知るとともに、さまざまな価値観を尊重することの重要性を理解してもらうこと。

NIMIC では西東京市教育委員会からの委託を受け、市内の小中学校と協議をしながら、外国人講師の故郷にまつわる写真から対話を始める「フォトランゲージ」という方法を用いて、このプロジェクトを行なっています。終了後、子どもたちは感想文を書いて授業のふりかえりを行ないます。スタッフは、後日送られてくる感想文を楽しみにしています。

今年度は 5月12日の青嵐中に始まり、7月18日のひばり中まで、計15日間、10校で行われました。今後は 10月末から 2月までの間に 13校での実施を予定しています。

学校によって、ひとつの学年のみの場合と、複数学年での実施となる場合があります。これは学校からの希望によるのですが、昨年度も体験した子どもたちの感想に「ふたつの国の人とこのプロジェクトで出会ったが、それぞれ違って面白かった」というものがあり、子どもたちの心にこのプロジェクトが残ったのだと伝わってきました。永く心にとどまっていてくれるよう、期待したいものです。

7月までに、イギリス、ウズベキスタン、オランダ、スペイン、タジキスタン、中国、デンマーク、ニュージーランド、フランス、ポーランドから現在日本に来て活躍されている方々に講師をしていただきました。多くは留学生です。「自分が子どもの時にこのようなプログラムがあったら良かった」「ぜひまた呼んでください。またやりたいです」と、プログラム終了後の講師側の感想も上々です。

フランス

ウズベキスタン

オランダ

デンマーク

第１２回「留学生ホームビジット」　開催

6月23日（日）第12回留学生ホームビジットが開催されました。今回は3大学14カ国からの留学生27名、受け入れ家庭は14家庭が参加しました。11時から行われた対面式のあと、各家庭を訪問、半日、家庭の皆さんとゆっくりとした時間を過ごしました。

受け入れ家庭の方々は　それぞれに趣向を凝らし、留学生たちを温かく迎えてくださり、留学生は日本の文化に触れ、それぞれにとって有益なものとなったのではないでしょうか。

留学生たちは「ランチのために一緒に買い物をしたり、子供と遊んだり、いっぱい話しました。本当に普通の家族みたいに過ごしました。すごく嬉しいです。」の感想のようにとても楽しく有意義な経験ができたことを喜んでいました。

今回は実施後の受け入れ家庭からの声をご紹介いたします。

「受け入れ家庭のご感想」

来年はお宅も受け入れ家庭になってみませんか。

・とても楽しい時間を過ごしました。ブラジル、台湾の文化のお話をして、今まで以上に異文化に興味を持ちました。

・二人とも日本語が上手でコミュニケーションで全く困ることはなかった。留学生が「日本の家族ができて嬉しい」と言ってくれました。また、我が家に遊びに来てもらう約束をしました。

・二人の留学生は非常にしっかりした考えを持ち、また、才能に恵まれ、まじめに勉強に取り組んでいるようで好感が持てました。

・今、娘と英会話を勉強中。留学生の方々が一生懸命日本語を話しているのを聞き、完璧じゃなくていいから、とにかく話してみようと勇気をもらった。

・私達が普段あまり知り合うことのできない国の留学生がきてくれ、ゆっくり話ができたので、とてもよかった。我が家は狭く、ホームステイの受け入れは難しいが、こういった一日の体験はありがたく、貴重な経験でした。

「ありがとうございました」

今年は14カ国という様々な国の留学生が参加、また、受け入れ家庭は30代から70代まで幅広い年代の方々が参加してくださり、楽しく、有意義な時間を過ごしてくださったようです。半日という短い時間ではありますが、この留学生ホームビジットが身近な国際交流の場となって、参加された皆さまが多文化共生の意義と楽しみを実感していただけたのではと思っております。来年も多くのご家庭が参加してくださることを期待しております。（実行委員長　三村志津子）

♪NIMICの会員になりませんか♪

会員になると・・・

- NIIMIC の主催講座やイベントに会員価格で参加できます。
- NIMIC主催イベントなどを実行委員として一緒に作っていくことができます。
- 広報誌「多文化のわ」の他に、月刊メールマガジンをお送りします。

年会費

- 個人・団体：2000円（学生は1000円）

家族会員制度もあります。入会金はありません。

★入会お申し込みは、イングビル１階の事務所または、ホームページをご利用ください。お申し込み後、振込方法をご連絡いたします。

NPO法人西東京市多文化共生センター(略称:NIMIC)の理念と活動内容

■私たちの活動理念――――■

異なる文化的背景を持つ人々が、宗教や信条、生活習慣の違いを互いに理解し尊重し合い、偏見や差別意識を持つことなく、共に地域で暮らす「多文化共生社会」を築くことで、世界*平和に寄与することを目指して活動します。

「外国人にとって住みやすい社会は、みんなにとって住みやすい社会」と考え、外国人支援、および受け入れる地域社会の啓発活動を通じて、市民活動の育成を図ります。

■地域に在住する外国人支援――――■

・相談窓口運営：月曜～金曜
（多文化共生センターにて日常生活相談）

・多言語サポート：通訳ボランティアによる市報抜粋多言語版「くらしの情報」作成、相談窓口通訳、学校や市の機関への通訳派遣

・子ども日本語教室（小学部・中学部）：外国にルーツを持つ小・中学生の日本語学習サポート教室
（毎週開講）

■多文化理解の促進――――■

子どものための多文化ワークショップ、英語で楽しく、留学生ホームビジット、音楽やゲーム（市民まつり）を通しての多文化理解、言語と文化を楽しむ多文化・多言語サロン等の活動

■多文化共生に向けての活動の活性化、ネットワークづくり――――■

・日本語ボランティア入門講座、多文化ボランティア講座など各種講座の開講

・多文化共生を進めるボランティアや団体の支援・ネットワーク化

・会員対象のイベントや事業参加を募る目的で毎月メルマガを発行、ホームページを通じ活動の理解を呼び掛け、2010年度から季刊広報紙を発行

＊一般的に理解しやすい「外国人」を使用していますが「多様な文化を持つ人々」を指します。

西東京市多文化共生センター

〒188-0012
東京都西東京市南町5-6-18
イングビル1F
【窓口時間】
月曜日～金曜日　10：00～16：00
（12：00～13：00はお昼休み）
【電話/FAX】042-461-0381
【E-mail】info@nimic.jp
URL：http://www.nimic.jp/
＊西武新宿線田無駅南口徒歩2分
JA並び

広報誌「多文化のわ」Vol.22
2018年11月1日発行
編集・発行
NPO法人西東京市多文化共生センター
〒188-0012 西東京市南町5-6-18
市民協働推進センター内mailboxNo2

＊＊＊編集後記＊＊＊

◇「多文化のわ」は半年ごとの発行です。半年間の皆様の活動を記す記録の場となっていくことを念願しています。（MT）

◇半年があっという間です。（YT）

◇編集をする度に、イベントの素晴らしさが伝わってきます。今後新たなイベントが生まれることも期待して・・・（YN）